



日本太鼓シニアコンクール県大会 養父太鼓鼓彩 全国へ！



全国大会への切符を手にしたメンバーら

11月25日、三田市で開催された日本太鼓シニアコンクール兵庫県大会において、市内の和太鼓チーム養父太鼓鼓彩（15人）が出場し、初優勝しました。

養父太鼓鼓彩は、平成21年に養父公民館主催の和太鼓教室に参加した児童を中心に結成したチームです。今回、小学生を中心にした全メンバーで出場し、3度目の挑戦で快挙を手に入れました。

リーダーの梅井日南子さん（10）は、「優勝できてうれしい。全国大会にむけてしっかりと練習をがんばります」と決意を新たにしていました。

なんとかせんなん！ 養父市元気プロジェクト始動！

12月15日、「養父市元気プロジェクト」の発表会が県立但馬長寿の郷で開催され、約300人が参加しました。

養父市元気プロジェクトは、「生き生き生きる知恵と和」をテーマに市民主導でまちおこしに取り組む団体です。この日は、プロジェクトを構成する「学び」「遊び」「物・食」の分科会から、歴史探訪ツアーや養父市を一つにする祭り、名物料理の考案などの地域活性化策が提案されました。プロジェクトの世登会長は、「楽しくなれることから、みなさんと一緒に始めていきたい」と参加者に呼びかけていました。



各部会から地域活性化策が提案されました

農業高校だからできる支援を！ シクラメンの花贈呈

12月13日、県立但馬農業高等学校農業科の生徒らが心を込めて育てたシクラメンを、被災地へ贈りました。

同校では、昨年から遠隔地でも農業高校ならではの、支援を行っています。この日は、草花コース3年の生徒がクリスマスシーズン前のこの時期に、シクラメンの花115鉢を宮城県名取市の箱塚桜仮設住宅と気仙沼市内の小中学校2校に贈る作業を行いました。間戸場博志君（17）は、「生徒一人ひとりが心をこめて栽培しました。復興の力になればと思います、シクラメンを贈ります」と話していました。



心をこめて、贈呈作業をする生徒ら

八鹿高校卓球部 県大会3位入賞！

11月17～18日、豊岡市で開催された第54回兵庫県高等学校新人卓球選手権大会学校対抗に県立八鹿高等学校卓球部が出場し、みごと3位入賞を勝ち取り、第27回近畿高等学校新人卓球大会の出場権を得ました。

同校卓球部は、現在男子22人、女子4人が所属し、部員それぞれがレベルアップを図りながら日々練習を頑張っています。

キャプテンの川本完太さん（17）は、「県大会は、緊張したけどみんなで頑張った。目指していた近畿大会にやっといけると嬉しい、嬉しかった。一つでも多く勝てるよう頑張りたい」と抱負を語ってくれました。



入賞の栄冠を勝ち取った選手たち

養父校区自治協議会拠点施設

オープニングイベント開催



校区民が出品した作品を鑑賞する参加者

12月8日、養父校区自治協議会「ふれあいセンターやぶ」が完成し、オープニングイベントが開催されました。

この施設は、同協議会と市が校区民の活動拠点に利用するため、平成24年3月末で移転した旧養父保育所の空き施設を改修したものです。

このたび、校区民へお披露目として看板披露や作品展示、また養父小学校茶道クラブの児童によるお茶の接待などが行われました。同協議会の辻本会長は、「今後は、この施設を拠点として養父校区のまちづくりを進めていきたい」と話していました。

一年の初めに 五社をめぐる快走!

新年を迎えた1月1日、ジョギングを楽しむ参加者ら

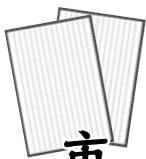


ジョギングを楽しむ参加者ら

「五社めぐり走ろう会」が市体育協会・市楽走会主催で開かれ、約50人の参加者が走り初めを楽しみました。当日は、好天に恵まれ、八鹿公民館をスタートした参加者は、栄町の三柱神社から天子区の屋岡神社まで参拝しながら走りました。

ゴールした参加者は、「気持ちよく走れました。今年も一年頑張りたい」と笑顔で抱負を話していました。

市長便り



明けましておめでとうございます。年明けに心温まる話題を書くことといたします。昨年の11月上旬、地球の裏側にあたるブラジルから「人との出会い・命がくれたモノ」と題し、市長へのメールをいただきました。差し出し人は八鹿町高柳の密祐文さんで、現在は高野山真言宗金剛峯寺の職

員としてブラジル南米開教区金剛寺の住職代理をされています。その概要は、密さんが日系人の高齢の女性の葬式に出て、女性の親族に出身地を尋ねられたところ、兵庫県の「あけのべ」といわれ、その親族は亡くなった女性の子供たちで、小学生の頃まで大屋町の明延で生活し、亡くなった女

性の旦那さんはブラジルへの移住前までは明延で住職をされており、60年を過ぎて異境での出会いに涙されていたとのこと。また、メールの結びにはこうありました。「こんなことがあるのだろうか。明延で子どもを育てブラジルで亡くなられた父母がこの出会いを誰よりも驚かれていますことでしょうか。この出会いは父母から子供たちへの最期のプレゼントなのかもしれません。こんな素晴らしい出会いに感謝しています」人の心のつながりの薄さ、粗末に扱われる命、年末の慌ただしさの中に、ほっと心が癒やされるメールでした。遠く離れた異境の地で故国を愛し、故郷を思う人々の心の支えとなっていた密さんのご活躍を祈念いたします。密祐文さんからのメールは市広報2月号に全文掲載いたします。

市長 広瀬 栄